

些細な事？

飛騨市教育委員会 教育委員 向川原眞郷

時報 市町村教委(令和7年1月発行 NO.314)に「箸にみる心」と題した随想がありました。著者は、株式会社トータルフード代表取締役 小倉朋子さん。箸は、実に12ほどの役割を持っているというのは、驚きです。そんな風に器用に使いこなす民族は、世界中で三分の一ほどもあるとのこと。ただし、その箸に精神性を込めているのは、日本人だけだといえます。もともとは、祭事など神様に供するために用いられたとのこと。持ち方を含め、作法などもあり、神聖な道具であったと、推察しておられます。

この記事を読みながら、子供のころ、箸の持ち方や扱いについて、いろいろと教えられたことを思い起こします。今、給食の時、子供たちが箸を使っているのを見ると、実に様々で、「よくこれをつまめるなあ」というくらい個性的な扱い方をしています。

と、そんなことを考えていたら、そういえば鉛筆はもっとすごいんじゃないかなろうかと思いました。いま、子供たちに持たせる鉛筆の濃さは、2Bが主流だとのこと。子供たちの筆圧が下がっているからとのこと。私たちの子供のころは、親指・人差し指・中指の三点支持で鉛筆を固定し、中指の第一関節あたりに鉛筆を当てて書くと、そこにベンダコができ、よく勉強している子はベンダコができますよと言われていました。私の場合、筆圧が強かっただけなのに、自分のベンダコを見て、自分はよく勉強しているってことかと勘違い。それはともかく、教室の子供たちは、薬指や子供によっては小指まで駆使して文字を書いているのです。学校でも低学年のころに、ペンの持ち方を指導してはいるものの、正しく持つ指導は難しいのが現状のようです。でも、正しく持つことがいいのか、その子の持ちやすさを大切にいいのか、今の時代の流れは、持ちやすさを重視するということでしょうか。なんといっても、個別最適化という考えもありますから。でも……

先に紹介した小倉さんは、箸一本……(二本ですか)で研究を深められた方です。日本人の精神性を研究されました。「箸先は人には向けないようにしましょう」ということ一つを伝えるだけでも、他者を思いやる心を育てることにつながるのではないかとおっしゃっています。単に身についた持ち方の良しあしでなく、鉛筆にも使い方の中に込められる願いがあってもいいのかなあ、そしたら、きれいな持ち方もできるようになるかなあと、些細な思いを抱かせた随想でした。

戦後80年に思うこと

東白川村教育委員会 教育委員 百瀬玉緒

『戦争は遠くに感じますか？ それとも近くに感じますか？』

先日、「村と戦争」という東白川村を題材にしたドキュメント映像を見た際、その会場で聞かれた質問です。

この映像は満州開拓団に出向いた人々やその家族が語る記録。隣で見ている91歳の私の父もその当事者です。6歳の時、家族皆で満州に渡り、12歳で終戦となり、一人きりで帰国しました。母・弟・妹・祖父の4人は消息不明、後で帰国する父親とも生き別れだったそうです。父は満州でのことは多くは語らず、「ただ生きていくのに精いっぱいだった」とぼそりと言います。

私も父の満州での出来事を話題にするのは、今まで何となく遠ざけていましたが、昨年、長野県に満州開拓団の資料館があると聞き、一緒に行ってみました。そこで資料として記載されていた父や家族の名前を目にした時、会ったことのない祖母たちに会えたようで気持ちが高揚しました。

その資料館は、後世に残すべき素晴らしい施設であり、子供向けの資料もあり、近隣の学校からも学習に訪れることが多いとのことでした。

さて、今の日本は平和になりました。

今年の歌会始のお題は「夢」。天皇陛下も、各地の子供たちが将来の夢について目を輝かせて語る姿をうたわれました。私は今まで、子供たちというのは何の不安もなく夢と希望にあふれているものだと思っていました。しかし、最近は将来の夢や希望がないという子が増えたと聞きます。そういう子が全国データで4割ほどいるらしいし、東白川中学校の生徒もやはり同じくらいの割合でした。

夢や希望が無くなれば、命を粗末に扱うことすら、ためらわなくなるかもしれません。一方で、終戦を経験し身も心もボロボロになって、生きること必死だった12歳の少年は、いつか家族に会えるという希望だけは持ち続け、帰国し、そして今に至ります。

こう考えると、今子供たちにとって何が大切で、何をしてあげたらいいのでしょうか？

いくら考えても私には模範解答は見つかりそうにありません。

ならばせめて、子供たちに恥ずかしくない姿でいられるよう、こんな草の根活動をしたいと思います

- ・戦争はしないという正しい判断のできる大人になります。
- ・いくつになっても夢や希望をもつ大人になろうと思います。
- ・努力することを忘れないかっこいい大人になりたいと思います。

最後に、冒頭の質問。

会場にいた、大多数の人が後者に手を挙げました。もちろん私も、恐ろしいことが近くにあるような感じがしてなりません。

皆さんはどうですか？